

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.73

2010.6.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.73 目次

平成 22 年度WRV総会報告	2
口演内容のご紹介「カラスのミネラル分析」	3-8
「ヒナを拾わないで！」キャンペーン報告	9
東京バードフェスティバル報告	10
寄付のお礼とお願い・書籍紹介	11
事務局日誌	12

平成 2 2 年 度 総 会 報 告 (収支報告)

平成22年4月10日(土)に平成22年度総会が立川市民会館にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、平成21年度収支報告・平成22年度収支予算をご報告致します。

会 計 報 告

平成21年度収支報告書(平成21年1月1日から平成21年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	2,075,456	事業費	
事業収入	183,400	傷病野生動物の救護と野生復帰	476,044
委託事業収入	11,261,452	病性鑑定及び疫学調査	784,357
補助金収入	1,580,000	学会報告、会報、講習会、HP等	9,610,689
寄付金収入	102,500	野生動物の傷病予防に関すること	0
預金利息	19,579	生物多様性の保全に関すること	0
雑収入	0	野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	0	他団体との交流	205,624
		管理費	2,370,081
		租税公課(消費税)	272,400
当期合計金額	15,222,387	当期合計金額	13,719,195
前期繰越収支差額	29,032,987	当期収支差額	1,503,792
		法人税等充当金	466,900
		時期繰越収支差額	30,069,279

平成22年度予算案(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	2,500,000	事業費	
事業収入	400,000	傷病野生動物の救護と野生復帰	900,000
委託事業収入	9,000,000	病性鑑定及び疫学調査	700,000
補助金収入	1,500,000	学会報告、会報、講習会、HP等	9,870,000
寄付金収入	500,000	野生動物の傷病予防に関すること	10,000
預金利息	0	生物多様性の保全に関すること	10,000
雑収入	0	野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	100,000	他団体との交流	200,000
		管理費	2,000,000
		租税公課(消費税)	300,000
当期合計金額	14,000,000	当期合計金額	14,000,000
前期繰越収支差額	30,069,000	当期収支差額	0
		法人税等充当金	800,000
		時期繰越収支差額	29,269,000

～ 口演内容のご紹介（その3）～

第30回動物臨床医学年次大会の一般口演の内容をご紹介します。

カラスのミネラル分析

須田沖夫¹⁾ 安田剛士¹⁾ 大窪武彦¹⁾ 野村治¹⁾ 中津賞¹⁾ 新妻勲夫¹⁾

Okio SUDA Tsuyoshi YASUDA Takehiko OKUBO Osamu NOMURA Susumu NAKATSU Isao
NIIZUMA

¹⁾特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16

カラス羽毛内ミネラル測定値結果から、K、Na、Cl など必須ミネラルは年齢と共に減少し、有害ミネラルのPb(鉛)は年齢と共に増加する。Hg、Cd、Pb、Al などの有害ミネラルは東京都心部などで高値であり、有害ミネラルのAs、Be は北海道池田町で高値であった。性別では雌はAs、Al、Hg が少し高かった。種別ではハシボソカラスはハシブトカラスに比べ、Al、Cd、Pb が低かった。

カラスの羽毛より有害ミネラル6項目を測定すると、種、性、地域など測定値の変動を認めるので、例数を増すことで環境汚染や食性差などの環境指標になると思われる。

キーワード：カラス、有害ミネラル、環境指標

はじめに

日本の野生動物保護管理行政は近年、大きく変化している。都市人口の増加は、一方、田舎では人口減少と、住民の高齢化が進んでいる。そのため、里山は人の手が入らず、荒れだし、野生動物の増加に繋がって、人と動物との距離を接近させている。特に大型、中型の哺乳類は増加傾向にあり、それに伴い農林被害や人の事故が増加している。また、移入種も加わり、日本の本来の生物多様性の保全が難しくなっている。

一方、都市でも人間社会に適した野生動物や移入動物は増加しているが、渡り鳥などは毎年減少し、地球上の生物多様性の保全が危うい時代になっている。

特にカラスやドバトなどの増加は、人間の生活場所である都市部で著名であり、住民よりの苦情が多くなり、行政は野生動物の駆除を実施し、傷病鳥獣の保護、救護に消極的になる傾向である。特にカラスは多くの地域で駆除対象であり今まで、多量に殺処分されているが、それを有効に活用されていない。

今回、その処分されるカラスを獣医学的に検証し、社会に何か貢献できないかと思い、羽毛よりミネラル分析をして、食性、年齢、性別や環境汚染の指標に応用できるのではないかと基礎的調査、研究をはじめたので、その中間報告をする。

実施方法

2008年8月から2009年4月まで、東京都の都心部、西多摩、南多摩、神奈川県境、山形県鶴岡市、北海道池田町で、行政が捕獲し、殺処分する直前に羽毛などを採取した。

カラスは、全て行政が設置したトラップケージ式で捕獲した。ケージ内に餌を仕掛け、一度中に入ったら自力では出られない装置である。ケージの大きさは地域によって様々である。ケージの管理は行政が直接行なったり、動物捕獲業者等に委託管理させている。

今回、都心部と山形県鶴岡市は業者に羽毛採取等をお願いし、その他についてはWRV等で捕獲、材料採取後処分を実施した。北海道池田町の処分は行政が行なった。

都心部14羽、西多摩25羽、南多摩5羽、都県境43羽、山形県鶴岡市17羽、北海道池田町18羽、合計122羽のカラスの羽毛を採取した(図1)。

採取時期は、8月8羽、9月35羽、10月25羽、1月11羽、2月15羽、4月28羽であった(表1)。

羽毛は首部側部の羽毛をむしり取り、乾燥後0.1~0.2gをら・べるびい予防医学研究所に送り、ミネラル分析の測

定を依頼した。

カラスの種類、性別、年齢、体重はカラス研究者の指導に基づいて実施した。検体調査後、多くは炭酸ガスで殺処分し、火葬した。また、調査については行政から認可を受けた。ミネラル分析法は、精秤した羽毛を、アセトン、0.01% Triton 溶液、超純水にて5回洗浄した後、有機アルカリ溶液 (Tetracyanhydrammonium hydroxide) を加え、加熱下に振とう溶解した。この羽毛溶液を室温にて放冷後、重量方にて液量を調整し、測定試料とした。

ミネラル量の測定は誘導結合プラズマ質量分析器 (ICP・MS Agilent・7500ce) を用いて、内標準法 (内標準元素 Sc、Ga、In) にて行った。測定対象ミネラルは、必須ミネラル 13 元素のほかに、水銀 (Hg)、鉛 (Pb)、カドミウム (Cd)、ヒ素 (As)、アルミニウム (Al)、コバルト (Co)、ニッケル (Ni)、バナジウム (V)、ゲルマニウム (Ge)、ホウ素 (B)、臭素 (Br) を加えた 26 元素とした。測定値は、羽毛 1g 当たりのミネラル量 $\mu\text{g/g}$ (ppb) で表示した。

成績

日本の主なカラスはハシブトカラスとハシボソカラスであり、以前はハシボソカラスが多く見られたが、近年、全国的にハシブトカラスが増加している。今回の調査でも、ハシブトカラスが8割を占めた。

カラスの性別は外観上での識別法はまだ確定した基準は無く、専門家でないとは判別が難しいので、調査に同行してもらい、判別をしてもらった。今回の調査では雌雄差は、ほぼ半数であった。

カラスの年齢の判定基準はまだ無く、今回は専門家が口腔内の色彩等で区別し、幼鳥は生後1年、若鳥は2-3年、成鳥は3年目以上の3段階に分類した。捕獲したカラスでは幼鳥が年間を通して一番多く、全体の7割くらいであった。これは、幼鳥の絶対数が多い事と、好奇心の強さ、幼鳥の習性、また、危険に対する経験が少なく、餌の捕獲が下手で、トラップケージにかかる率が高い結果と思われる。現在までカラスの総合的、科学的な生態調査が少ないので、実際のところはよく解明されていない(図2)。

ハシブトカラスとハシボソカラスで羽毛内ミネラル値を比較すると、ハシブトカラス数が多いので、全体的に平均値に近い。ハシボソカラスは Na、Mn、Zn、Se、K、Zn は平均より低く、Li、K (カリウム)、Ca (カルシウム) は平均の 1/2 位であり、V (バナジウム)、Cr (クロム)、Co (コバルト)、Ni (ニッケル)、Cd (カドミウム)、Fe、I (ヨウ素)、Pb (鉛) は 1/3 位で、特に Pb (鉛)、Al、V は 1/5 の低値であった。Mn は 1/100 であった。

ハシボソカラスの Br、P、B は平均値より高かった(表2)。

性別では雌は Li、Al、Fe、I が高く、Ni、Cd、Pb は低かった。

年齢別では Li、Be、Na、P、K、Mn は幼鳥で高く、年齢と共に減少した。反対に Ca、Ni、Cu、Zn、Ge、Mo、Pb は年齢と共に増加した。

Ni (ニッケル)、Pb (鉛)、Ca (カルシウム) は成鳥では幼鳥の2倍になり、特に Cr (クロム) は5倍に増加した(表3)。

地域差による違いは平均値より高いものは、西多摩では K、Na、P。南多摩では B、Na、Cu。都心では B、V、Cu、Zn、Se、Mo、I、Hg、Cd (カドミウム) が少し高く、Ca (カルシウム)、Cr (クロム)、Ni (ニッケル)、Pb (鉛) が特に高値を示した。都県境では Al、Ca、V が2倍に。鶴岡市では B、Mg、Br、池田町では P、Mn、As、Li (リチウム)、Be (ベリリウム) が高かった。平均値より低いものは西多摩では Li、Cr、V、Mn、Fe、Co、As、Pb、Hg は少し低く、Al、Ca (カルシウム)、Cr (クロム)、Cd (カドミウム) は低かった。南多摩では Al、K、Ca、Mn、Fe、Cd、Pb で少し低く、Cr (クロム) が高かった。都心では Li、Mg、P、Br が少し低く、Na (ナトリウム)、K (カリウム) が低かった。鶴岡市では Li、Na、P、K、Ca、Mn が少し低く、Al (アルミニウム)、V (バナジウム)、Fe (鉄)、Co (コバルト)、Cd (カドミウム)、Pb (鉛) は 1/2~1/4 と低く、Ni (ニッケル) は特に低かった。池田町では Cr、Ni が低く、Pb は 1/4 の低値であった。

地域によって測定値にバラツキの大きいミネラルは西多摩では Na、Mg、P、K、V、Ni、Hg。南多摩では B、Na、Mg、Ca、Ni、Se、Hg。都心では Be、B、P、Ca、V、Cr、Co、Ni、Cr、Zn、Se、Cd、Hg、Pb。都県境では Mg、Al、Ca、V、Mn、Cd、Hg。鶴岡市では B、Na、Mg、P、Ca、Mn、As、Br、Mo、Hg。池田町では Li、Be、Na、Mg、Al、P、V、Mn、Fe、Co、As、Mo、Hg である。バラツキの小さいものは西多摩では Li、Be、Ca、Cr。南多摩では Li、Cr、Fe、As、Pb。都心では Li、Al、K、Fe。都県境では K、Ca、Cr、I。鶴岡市では Li、Be、Al、V、Fe、Ni、Zn、Cd、I。池田町では Cr、Ni、Cu、Cd、Pb である。

考察

今回測定した 26 元素の、カラス基準値はまだない。有害ミネラルは Cd (カドミウム) Hg (水銀) Pb (鉛)、As (ヒ素) Al (アルミニウム) Be (ベリリウム) の 6 元素である。

有害ミネラルで地域別に平均値より高値を示したのは、都心では Hg、Cd、Pb である。都県境では Al と Cd である。池田町では As、Be である。他の 3 ヶ所では高値を認めなかった。しかし、測定値のバラつきがみられ、Hg は 6 ヶ所全部で見られた。Cd は都心と都県境で、Pb は都心で、Al は都県境で、また、As は池田町で少し見られた。

都心や都県境の Cd、Hg、Pb の高値は、環境や食性などの汚染物質の影響が考えられる。鶴岡市と池田町では As と Hg、Be が高いので、以前から農業等で汚染がまだ残っている可能性もある。

年齢による増加は、Pb (鉛) の他認めなかったが、更なる調査によっては、さらに何か解るかもしれない。Cd が鶴岡市と池田町で、Pb は南多摩と池田町で、Al は都心と鶴岡市で、As は南多摩でそれぞれ少しのバラつきを認められた (表 3, 4、図 3)。

必須ミネラルは Na (ナトリウム) K (カリウム) P (リン) Mg (マグネシウム) Ca (カルシウム) Se (セレン) I (ヨウ素) Cr (クロム) Mo (モリブデン) Mn (マンガン) Fe (鉄) Cu (銅) Zn (亜鉛) Co (コバルト) である。

P、K、Na の必須ミネラルの他、Be、Li は年齢と共に減少する。これは生理的なことと思われる。以前の、カワウ調査においても同様であった (表 5, 6)。

カラスの生活活動範囲は数 km から数十 km と言われており、個体差も大きいので、ミネラルの差は長年、その地での環境 (食性、汚染など) によるものと思われる。

種別においても、ハシボソカラスは Al、Cd、Pb がカラス全体の平均より低値であり、有害ミネラルはカラスの種による生活環境や食性なども関係しているものと思われる。

性差では Cd と Pb は、雌が低く、As、Al、Hg は雌が高かった。これはカラスの習性や地域、環境の影響なのか、今のところ不明である。人では Cd、Pb、Al は女性で高く認められているがカラスの性差とは逆である。

ハトは B、Na、Mg、Al、P、K、Ca、V、Cr、As、Se、Mo、Cd、I、Hg、Pb がカラスと比較すると軽度か高度に低値であった。高いのは Mn、Br のみであった。

カワウは Cd、Ca、Fe、As がカラスと比較すると高く、Pb、Na が低かった (表 7)。

トビ、アオバズク、フクロウは群馬、ユリカモメは神奈川、カルガモ、ヤマシギ、キジバト、チュウサギ、は東京南多摩での保護である。この、傷病鳥 9 羽 9 種の有害ミネラルとカラスを比較すると、Be は全例とも低く、ユリカモメ、トビ、ヤマシギ、カルガモ、キジバトは約 1/10 であった。AS はヤマシギ 5 倍、ユリカモメ、チュウサギは 2 倍前後であった。Cd はフクロウが 3 倍、キジバト、チュウサギは 1/4 以下であった。Hg は、ユリカモメ、ヤマシギが 2 倍前後で、キジバトは 1/25、フクロウは 1/6 であった。Pd はツグミ、チュウサギ、ヤマシギ、トビ、フクロウ、ユリカモメは 1/10 ~ 1/2 であった。種や地域それとも個体差なのか、1 例では不明であり、臨床所見との関連も不明であった。

まとめ

1. 必須ミネラル等は、年齢と共に減少するものがある。
2. 有害ミネラルの Pb は年齢と共に増加する。
3. 地域によって有害ミネラル値は差がある。
4. 東京都都心部など、Hg、Cd、Pb、Al が高値。
5. 多摩、山形は有害ミネラルの高値を認めなかった。
6. 性別では雌で As、Al、Hg が少し高かった。
7. 種別ではハシボソカラスの方が Al、Cd、Pb が低かった。
8. 季節による変動も認めた。
9. カラスの種、年齢、性別、地域、季節でミネラルは変動する。
10. 鳥種によってミネラルは差異を認める。

- 1 1 . ハトは全体にカラスより低値を示すものが多い。
- 1 2 . カワウはCd、Ca、Fe、Asがカラスより高かった。
- 1 3 . ミネラルの濃度と臨床所見の関連は不明。

今後の課題

- 1 . 調査数の増加が必要
- 2 . 地域を広めることで環境変化が解る
- 3 . 季節ごとに集めることで短期の環境変化が解らないか
- 4 . 体重、栄養状態、血液検査と組織検査等の所見と関連を調べる
- 5 . ミネラル濃度と病態との関連を調べる
- 6 . 動物種を増すことで環境や食性など比較できる
- 7 . 関連分野の研究者との連携が必要
- 8 . 行政の理解と経済的協力が必要

謝辞

多摩動物公園 吉原正人氏

東京大学 樋口広芳先生

シー・アイ・シーの皆様方

ら・べるびい予防医学研究所

アイデックス ラボラトリーとWRV 事務方の箕輪さん、吉見さん、梶山さん、佐藤さん
ご指導、ご協力を感謝いたします。

本事業は「財団法人 日野自動車グリーンファンド」の助成によって行なっています。

図1 . 保護地域分布

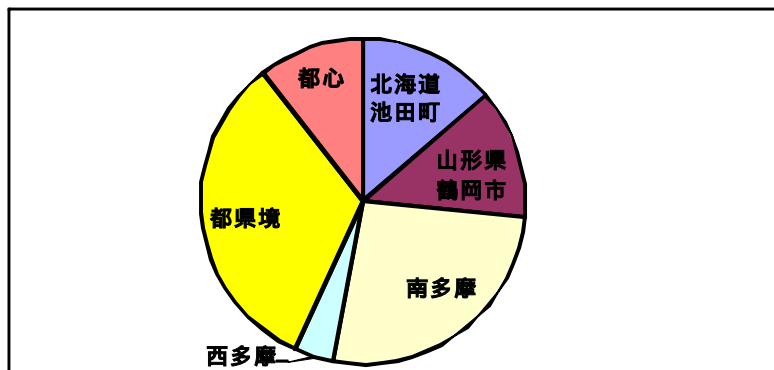


図2 . 年齢分布

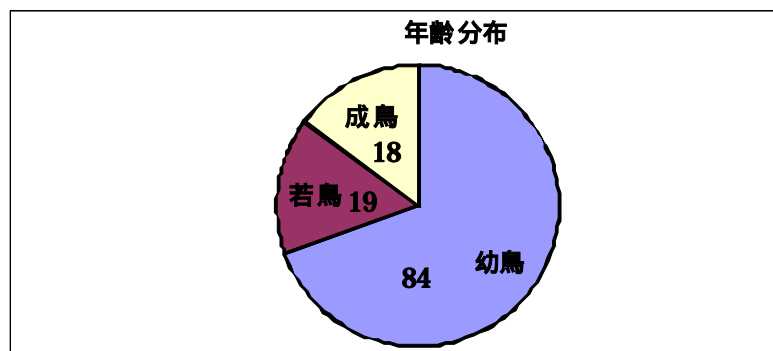


図3．地域別鉛ミネラル

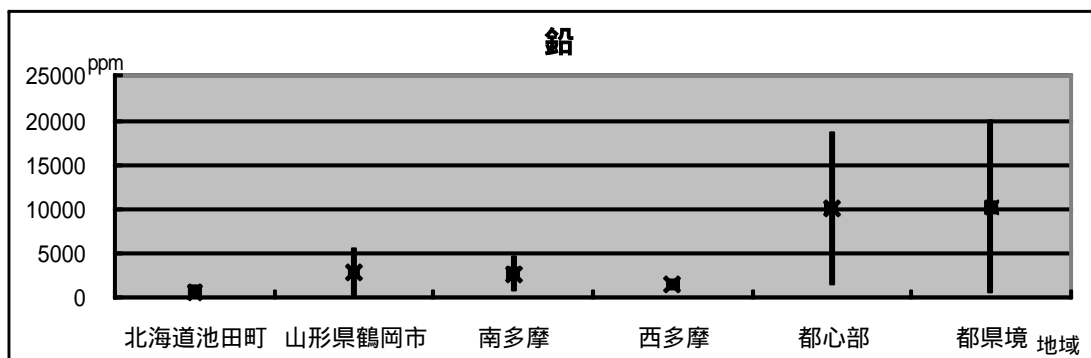


表1．調査数と時期

保護月	採取
8月	8
9月	35
10月	25
1月	11
2月	15
4月	28

表2．必須ミネラルの年齢による変動

	K(ug/g)	Na(ug/g)	P(ug/g)	Be(ng/g)	Li(ng/g)
幼鳥	97	100	190	2	10
若鳥	48	46	110	2	14
成鳥	47	50	115	1	5

表3．ミネラルの年齢による変動

	B(ng/g)	Ca(ug/g)	Cr(ng/g)	Ni(ng/g)	Zn(ug/g)	Se(ng/g)
幼鳥	886	661	418	306	108	1130
若鳥	936	957	438	263	123	1187
成鳥	1152	972	2502	475	124	1160

表4．有害ミネラルの年齢による変動

	Be(ng/g)	Al(ug/g)	As(ng/g)	Cd(ng/g)	Hg(ng/g)	Pb(ng/g)
幼鳥	2	80	46	24	1874	1954
若鳥	2	111	49	39	1825	2828
成鳥	1	43	52	30	1472	3239

有害ミネラルの地域による変動

表5．有害ミネラルの地域による変動

	Be (ng/g)	Al (ug/g)	As (ng/g)	Cd (ng/g)	Hg (ng/g)	Pb (ng/g)
北海道池田町	3	80	66	17	1302	553
山形県鶴岡市		12	47	8	1487	657
南多摩		36	33	18	2067	1355
西多摩		33	37	9	1623	1920
都心(四ツ谷)	1	40	50	44	2563	5668
都心(上野)	8.3	256	130	256	1348	10196
都県境	2	163	45	45	1834	2708
只見	13	135	233	117	4966	3418
ヒト		4000	30	15	4000	680

ヒト平均値は、へるびII HPより
只見、上野は参考値として

表6．ミネラルの地域による変動

	Li(ng/g)	B(ng/g)	Na(ug/g)	P(ug/g)	K(ug/g)	Ca(ug/g)	Fe(ug/g)	Co(ng/g)	Ni(ng/g)	I(ng/g)
北海道池田町	13	966	100	282	77	512	83	89	73	526
山形県鶴岡市	4	1373	71	159	49	393	20	17	56	265
南多摩	7	1310	139	164	71	393	40	63	145	597
西多摩	5	768	174	230	175	310	42	49	97	524
都心	5	1294	51	129	49	1100	47	107	472	834
都県境	17	690	33	103	52	1140	139	186	391	716

表7．ミネラルの種別による変動

	Na(ug/g)	Al(ug/g)	P(ug/g)	K(ug/g)	Ca(ug/g)	Fe(ug/g)	As(ng/g)	Cd(ng/g)	Hg(ng/g)	Pb(ng/g)
ハシブト	90	98	167	91	799	91	46	30	1703	2619
ハシボソ	84	22	217	55	321	31	53	8	1974	262
ハト	16	16	88	4	58	8	11	1	40	34
カワウ	68		123	37	1882	119	116	31		239

表8

カラス血液検査平均値(08年9月10月)

	ハシブトガラス	ハシボソガラス
調査数(羽)	52	16
体重(g)	645	647
嘴長(mm)	65.9	47.5
PCV(%)	41	44
TP(g/dl)	3.6	3.7
Alb(g/dl)	1.3	1.5
Glu(mg/dl)	280	258
ALT(IU/l)	148	250
AST(IU/l)	667	1069
Lipa(IU/l)	263	496
Tcho(mg/dl)	171	141
TRIG(mg/dl)	112	97
URIC(mg/dl)	9.2	8.9
CPK(IU/l)	1222	>2036

表9

鳥種による有害ミネラルの違い

	B(ng/g)	Al(ug/g)	As(ng/g)	Cd(ng/g)	Hg(ng/g)	Pb(ng/g)
ハト		16	11	1	40	34
キジバト	186	13	16	4	69	259
フクロウ	699	21	39	60	303	140
カルガモ	76	7	42	17	400	901
中サギ	166	9	124	2	1901	482
カワウ			116	31		239
ヤマシギ	1243	10	226	18	4072	454
アオバズク	712	17	68	38	1793	1372
トビ	504	19	65	37	2903	159
カラス	2	80	46	24	1874	2300
ユリカモメ	1024	6	112	26	3359	233
クマタカ	0.5	710	678	712	13150	43650

補 足

抄録原稿提出後の追加データ

東京上野公園と福島県只見のカラスとクマタカを調査した。

有害ミネラルの As、Cd、Pb は両場所とも他の地域より高く、特に上野の Pb は北海道、山形の約 20 倍。只見の Hg は上野の 3 倍以上高かった。只見は人も少なく自然豊かな場所であり、どうして高いのかと思えば、群馬県のハツ端ダム他のヒ素が高濃度発表された。クマタカは食物連鎖の頂点のためか、Al、As、Cd、Hg、Pb とともに上野、只見のカラスより高濃度であった。日野自動車グリーンファンドの助成金報告会でも生態系の先生方の関心が高かった。

東京都は今年よりカラスの駆除は捕獲トラップ(115基)の他、巢の撤去数(36か所)を増すとのこと。カラス対策費は6700万円。

(補足：須田 沖夫)

平成22年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」協賛団体のご報告

WRV事務局 箕輪 多津男

WRVは、本年度も(財)日本野鳥の会および(財)日本鳥類保護連盟との共催により、「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」を実施させていただいております。

本年度のキャンペーンに、当協会あてにご協賛いただきました団体(または企業)は、それぞれ以下のとおりです。ポスターにも既にご芳名を掲載させていただきましたが、今年も、昨年に劣らず多大なるお力添えを賜りましたことに、改めて心より感謝の意を表します。誠にありがとうございました。

<ヒナを拾わないでキャンペーン/協賛団体リスト> (42団体:五十音順)

社団法人 愛知県獣医師会	社団法人 秋田県獣医師会
社団法人 石川県獣医師会	イソップ薬品 株式会社
社団法人 大阪府獣医師会	社団法人 北九州市獣医師会
社団法人 岐阜県獣医師会	社団法人 京都市獣医師会
社団法人 京都府獣医師会	株式会社 共立商会
株式会社 キリカン洋行	株式会社 サンギョウ
社団法人 静岡県獣医師会	NPO 法人 自然環境アカデミー
大日本住友製薬 株式会社	高尾霊園犬猫墓地
社団法人 千葉県獣医師会	東京環境工科専門学校
社団法人 東京都獣医師会	動植物観察研究会
社団法人 栃木県獣医師会	財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所
社団法人 長崎県獣医師会	社団法人 名古屋市獣医師会
社団法人 新潟県獣医師会	社団法人 日本獣医師会
日本全薬工業 株式会社	公益社団法人 日本動物病院福祉協会
社団法人 福岡県獣医師会	文永堂出版 株式会社
社団法人 北海道獣医師会	社団法人 三重県獣医師会
武蔵村山ペットメモリアルパーク	ムナテックス 株式会社
メモリアル・ジャパン 株式会社	森久保薬品 株式会社
野生動物ボランティアセンター	野生動物リハビリテーター協会
NPO 法人 野鳥の病院	学校法人 ヤマザキ学園
株式会社 吉元	社団法人 和歌山県獣医師会

会員の皆様には、前号のニュースレターとともにポスターを送らせていただきましたが、本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、引き続きその普及のためにご協力いただければ幸いに存じます。

例年のごとく、野鳥の繁殖期に当たるこの季節に、それぞれの雛の健やかな成長と旅立ちを願いつつ、これからも野鳥の声がいつでも美しく響き渡るような、身近な自然環境の保全を目標に、皆様と共に歩みを続けていければと考えております。

なおWRVでは、傷病野生鳥獣の救護活動につきまして、今後とも尽力してまいりますので、重ねて皆様のご協力をお願い申し上げます。

「東京バードフェスティバル 2010」参加報告

WRV事務局 箕輪 多津男

5月29日(土)から30日(日)にかけて、今年で7回目を迎える「東京バードフェスティバル 2010」が、東京港野鳥公園で開催されました。本行事にWRV(東京都支部)は6度目の参加となり、今回も団体PR用ブースを出展いたしました。

残念ながら、両日はあまり天候に恵まれず、終始曇りまたは小雨の状況でした。また、昨年までと違って、今年はブースの位置が会場内で一番奥のネイチャーセンター前広場に移動となったため、尋ねてくれた参加者の数がかなり減ってしまい、結果的に盛り上がり欠けてしまったことは否めませんでした。

一方、当日は神奈川県野生動物リハビリテーターがのべ11名、東京環境工科専門学校の学生が1名と、計12名の方々がボランティアとしてお手伝いいただき、ブースそのものについては、大変いい雰囲気運営することができました。



ブースの内容については昨年に準じ、野鳥救護等に関わるパネル展示ともに、立ち寄っていただいた一般の方々や子供たちを対象に「野鳥救護クイズ」を出題いたしました。解答いただいた方には、その場で内容の解説を行い、その解説を載せたシートと「ヒナを拾わないで!!」ポスター、そして身近な野鳥の成鳥と巣立ちヒナが掲載されている野鳥カードなどを一人一人に差し上げました。これらのクイズに関わる資料一式は、二日間を通じて約160セット配布いたしました。

なお、「東京バードフェスティバル」におけるブースの出展状況は、かなり落ち込んで来ており、年を追うごとにイベント自体の活気が失われて来ているような気がいたします。昨年も関係者の方々に進言いたしましたが、やはり、当フェスティバルが再び輝きを取り戻すためには、何らかの方向転換、あるいは新たな運営方式の導入を図っていくことが不可欠であると感じる次第です。

最後になりましたが、今回のフェスティバルへの参加にあたり、ご協力いただいたボランティアをはじめとする関係各位、あるいは当日ご多忙中にもかかわらず会場にお越しいただいた方々に、改めて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



< 当日の参加者(ブース運営等) >

新妻、皆川、梶山、吉見、箕輪(以上WRV)、山岸弘明さん、草谷まりさん、畔柳節子さん、横山まきさん、斉藤真理さん、山下ちか子さん、高橋真理さん、岡みつるさん、藤富由美さん、佐々木麻乃さん、佐々木有樹子さん(以上神奈川県野生動物リハビリテーター)、佐川智美さん(以上東京環境工科専門学校・学生)

【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者（敬称略）（平成22年3月9日から平成22年6月1日）

寄付金（一般）			寄付金（人災）		
10.3.18	中村 富士子	20,000 円	10.4.14	アミ動物病院 安田 剛士	19,863 円
	東京				
10.5.30	パードフェスティバル (募金箱)	7,440 円	10.4.16	山田 暁子	50,000 円

【人災による傷病野生鳥獣の救護活動募金】のお願い

WRV では、傷病野生鳥獣救護活動を迅速に実行するため、人員の派遣費および資材の調達の募金活動を行っています。ご協力をお願いいたします。（救護活動用基金）

郵便局加入者番号：00190-5-722368

加入者名義：WRV 人災募金

WRVニュースレター 原稿募集！！

WRVニュースレターに投稿してみませんか？

野生動物救護に関する症例報告、活動体験等の記事を募集します。

ご希望の方はメールにてお気軽にお問い合わせ下さい。

皆様の投稿をお待ちしております！！

問い合わせメールアドレス kyugo@wrvj.org



< 書籍紹介 >

『野鳥を助けるはじめての一步』

身近な野鳥の救護・保護のためのハンドブック』

傷ついた野鳥のヒナを見つけたらどうしたら
良いのか？

身近な野鳥のヒナそれぞれの対応方法について
分かりやすい解説がされています。

価格 1,500円（別途送料1冊210円）

ハンドブック代金と送料を郵便局口座にお振り込みください。

振込先	口座番号 00130-8-607137
	加入者名 野生動物救護獣医師協会



お問い合わせはWRV事務局まで。

事務局日誌 2009.3.25～2010.6.25

本部

- 4月10日：平成22年度WRV総会（立川市民会館）
4月19日：日本獣医師会野生動物対策委員会に出席 皆川
5月11日：東京都獣医師会都議会議員懇談会（都議会議事堂）に参加 新妻
5月15日：ヤマザキ学園大学竣工式典に参加 新妻
5月21日：中谷都議会議員の集いに参加 新妻
6月2日：田島一成環境副大臣との懇談会に参加 新妻
6月5日：日本衛生動物学会に参加 小松、新妻
6月6日：油汚染救護専門獣医師養成講座（日本財団助成事業）修了者フォローアップ実習、講習会 皆川

東京都支部

- 4月10日：平成22年度WRV東京都支部総会（立川市民会館）
5月29～30日：東京バードフェスティバル2010 出展

神奈川支部

- 3月26日：協働事業報告会、映像祭 皆川
3月27日：金沢動物園傷病施設見学会（リハビリテーター5期生） 皆川
4月17～26日：海ゴミGO ME展 in 金沢動物園（共催）朝日新聞・神奈川新聞掲載 皆川
5月1日：リハビリテーター更新講習会（リハビリテーター1、3期生） 皆川
5月16日：バードウィーク in ズーラシア 皆川
5月27日：動物ふれあいまつり in 橘公園 皆川
6月10日、12日：神奈川県立高校出張授業、一日体験学習 皆川
6月9日、13日：リハビリテーター ヒナのさし餌講習会 皆川
6月22日：川崎市立中学校一日体験学習 皆川
6月24日：幼稚園出張講演 皆川

野生動物救護獣医師協会（ホムページ）<http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 73 2010.6.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パルク302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄
